



# 柳生 博

「俳優」

## 森は 大いなる病院である

三〇年以上もの間、ハケ岳南麓の荒れた人工林を元に戻すべく、雑木を一万本以上移植し雑木林を作り、一部をハケ岳倶楽部として一般にも開放しています。きっかけは、子どもの頃、自分が育ったような環境で息子たちを育てたい、という気持ちからでした。子どもの頃は、親から野良仕事しなさい、と言われて育ったんです。家は農家で、計算しながら田畑や林に手を入れていく管理人のようでした。

雑木林のよさを満喫するには、ある程度の時間を林の中で過ごすのがよいですよ。長い時間、林の中に行くと、たくさんの生き物を発見することができます。それらがどういう行動をするのか、どう変化していくのかを見ながら過ごす。それだけでも心が落ち着くんです。こういった時間や環境の中にいることは、本当に気持ちのよいことです。森は大いなる病院、壊れた心を癒す病院なんです。

そんな雑木林を存続させるためには二〇年単位で手入れをしていかなければなりません。最近、どの木を伐つてどの木を残したらよいか、悩むことが多いです。なにせ自分で植えて生長さ

せた木を伐るわけですから。まるで子どもを伐る思い、ですからね。そうは言っても、林床に光が渡るように、定期的に間伐しなければなりません。光が入れば草が生え、ミミズが住み、質のよい土が出来る。その結果、鳥や他の虫などの生き物が集まる……。雑木林を存続させるには、この流れを循環させることが大切です。

今の楽しみは、孫など子どもたちと雑木林に入ることです。すると、ほとんどの子が『懐かしい』と言っんですよ。初めて入った子どもでも同じことを言っんです。本当に不思議です。きっと子どもたちにとって、雑木林は懐かしいものなんでしょう。二千年も続いてきた日本の自然、これが遺伝子に残っているんでしょうね。

プロフィール  
柳生 博(やぎゅう ひろし)  
俳優。昭和36年今井 正監督の東映映画『あれが港の灯だ』でデビュー。NHK朝のテレビ小説『いちばん星』の野口雨情役で脚光を浴び、クイズ番組『クイズハンター』の司会(テレビ朝日系)で人気を博す。最近では『生きもの地球紀行』(NHK総合)での出演及びナレーションで活躍。財団法人日本野鳥の会の会長、コウノトリファンクラブの会長も兼任する。

Hiroshi Yagyu